

文字を書くことの学習における 字形の多様さの価値と望ましさ

—『常用漢字表の字体・字形に関する指針』と漢字学習・書写学習—

上越教育大学 押木 秀樹

1. はじめに

「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」¹（以下、指針と略称）が検討される過程や、報告がなされた後、新聞やテレビのニュース等の影響もあって、関連する疑問や意見を見かけることが多い。様々な意見が聞かれる中、特に多く聞かれ、かつ対応すべきものとして、次のような声をあげることができる。

- （教育現場の声として）漢字テスト等の採点を、これまでと変えなければならないのか？
- （一般の声としても）なぜ、とめ・はねなどにこだわるのか？

→ こだわる必要はない。⇔ こだわるべきである。といったものである。

前者については、指針が平成22年の改定常用漢字表における「（付）字体についての解説」をよりわかりやすく具体的に説明しようとするものであることから、解説あるいは指針の内容を理解しそれに沿った指導ができていれば、特に変わるものではないということができる。

後者の「なぜとめ・はねなどにこだわるのか？」といった声には、こだわる必要はないという意見と、逆に、こだわりをなくしてはいけないといった意見の両方が聞かれる。なぜ両方の意見が聞かれるのか、またそれらにどのように応えていくのかは、国語科書写としても重要な点を含んでいると考えられる。その対象は、とめ・はね・はらい以外にも、画の長さや接し方、また筆順などであり、書写の学習内容である。

筆者は、漢字字形が多様であることの価値を適切に認識し、より良い字形で書けるようにすることが、国語科書写の基本的な姿勢であると考えている^{2・3}。本稿では、次の三点を検討することにより、文字を書くことの学習における書写の重要性を明らかにしたい。

- 学校教育において求める学力としての「字体」と「字形」
- 字形が多様であることの意味と価値
- より良い字形であることの意味と合理性

2. 文字を書くことの学力と字体・字形

漢字の学習内容は、形状、読み方、意味や用法とすることができ、このうち形状については、字体と字形とに分けて考えられる。指針では「字体」「字形」という用語の定義をおこなっており、「字体」は「文字を文字として成り立たせている骨組みのこと。」とされ、「字形」は「字体が具体化され、実際に表された一つ一つの字の形のこと。」とされる。

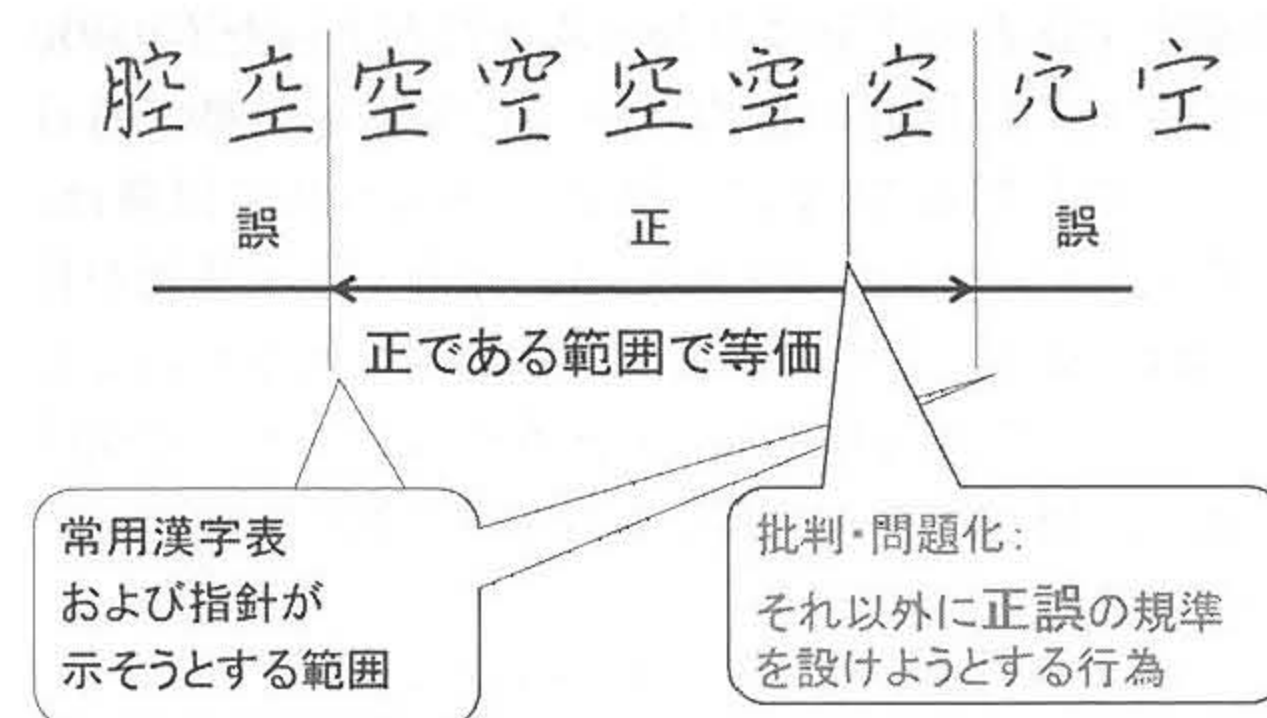


図1 字体の正誤

指針で示そうとしているのは漢字の正誤、すなわち字体として正しいとする範囲であると考えられる。加えて指針では、図1のように、正しいとされる範囲において字体は等しいものとして扱われる。前述した「とめ・はね・はらいにこだわる必要はない」という意見は、示された範囲において字体は等価であるにも関わらず、別に正誤の判断基準を設けようとすることに対する批判であることが多いと思われる。

一方、学校教育において、児童・生徒に身に付けてほしい、文字を書くことの学力は「正しい字体で書けること」はもちろんであるが、運用能力として、文字を用いたコミュニケーションが円滑に行えるよう、適切に書ける能力だと考えられる。「読めればいいじゃん。」「間違っていなければどんな字でもいいでしょ。」といったことではなく、「正しい字体」であることに加え、「望ましい字形」、あるいは「より良い字形」で

書くことも学力として求められていると考えられる。

このことを図で示したものが、図2であり、正である範囲においても差があるが、別の基準で○×をつけようとするものではなく、望ましい、より良い字形へのこだわりとして説明できる。

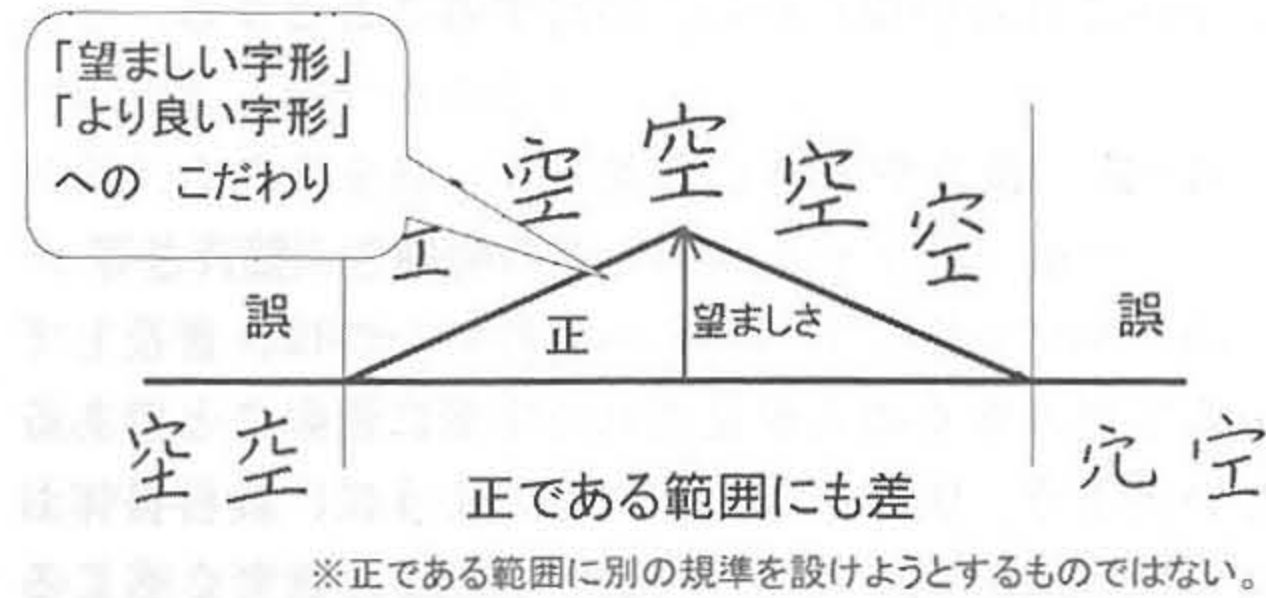


図2 望ましい字形

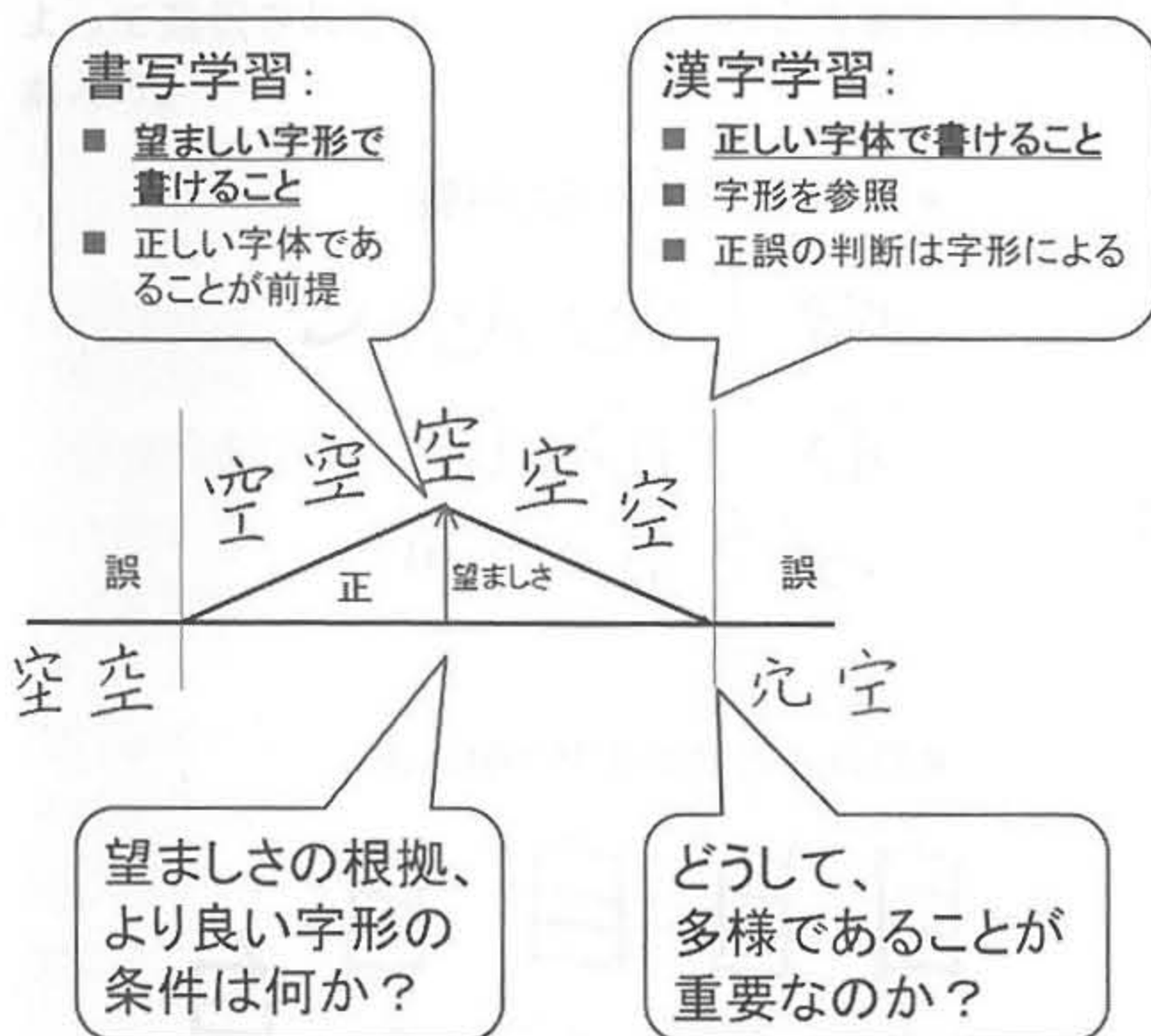


図3 漢字学習と書写学習、望ましい字形と多様性

図3に示すとおり、漢字学習は正しい字体で書けることを主として扱い、書写学習は望ましい字形で書けることを主として扱うとみることができるだろう。ただし、漢字学習として字体を学習する際にも、何らかの字形を参照し、学習過程で手書きする際には字形を生成することになる。書写学習においても、正しい字体で書くことは前提であり、字体を切り離して考えることはできない。そのため、漢字学習と書写学習の連続性がいわれることとなる。

前述の「こだわり」のうち、「正しい字体」について、常用漢字表および指針に示す以外の規準を設けようとするこだわりと、「正しい字体」の範囲内において、「望ましい字形」あるいは「より良い字形」であろうとするこだわりとは、区別して議論することが重要である。その上で、「こだわる必要はない。」という意見に対しては、望ましい字形・より良い字形の根拠

を説明することが求められるし、「こだわるべきである。」という意見に対しては、字形の多様性の意味を的確に説明することが求められる。それらをわかりやすく説明することが、国語科書写の重要性を認識してもらうことにつながるだろう。

3. 字形が多様であることの意味と価値

ことばは、具体的なものとして発せられるとき、音声か文字かになる。音声であれば、たとえば毎朝の「おはよう」という挨拶の音が、一人一人異なり、同じ人でも日によって元気があったりなかったりすることが自然であり、意味がある。文字においても、同様だと考えると字形が多様であることは当然である。それを、もう少し具体的に、3点から考えることとする。



図4 伝統と多様性(初唐の楷書)

3-1 文字を書くことの伝統と字形の多様性

楷書という書体の完成期は西暦600年頃、初唐と考えるのが一般的である。王羲之の黄庭経のような様式と、王興之墓誌から高貞碑などに至るような様式とが融合した段階であり、その後の雁塔聖教序や顔真卿の一連の石碑などは多様化の方向性を持っていると考えられる。したがって、この時代の楷書が、一つのスタイルに最も収束した段階にあり、後の時代の手本となったとして異論はないであろう。図4は、その代表である九成宮醴泉銘と、孔子廟堂碑であるが、「接し方」や「終筆特徴」としてのとめ・はねなどに差が確認できる。漢字文化圏における文字を書くことの文化は、早い時期から字形の多様性を認めていたと考えられる。続く宋代では、意識的にそのことが記述されるようになり、「書」としての意図的な表現を強めていくという考え方もできるだろう。

このように字形学習の伝統という点から、書写は画一化を目指すわけではなく、多様性をみとめるものであり、それは手書きによる文字の文化や伝統の継承といえるだろう。

3-2 文字を書く際の目的と多様性

日常の文字について考えた時、一人一人が字形に個性を持つという意味での多様さと、同一人物がそのたびに異なった字形で書くという意味での多様さがある。後者については、特に意味を持たない変動である場合と、何らかの意味を持つ場合とに分けられる。

図5は、書字目的によって書き分けられる例であり、左は読みやすさやフォーマリティなどが優先され、右は速さなどが優先されている可能性がある。平成20年学習指導要領において、「目的や必要に応じて」「～効果的に書くこと」とされており、この点からも書写学習において字形が多様であるべきことが説明できる。



図5 書字目的と字形の差

3-3 個性あるいはパラ言語としての価値

一人一人が字形に個性を持つという意味での多様性については、多くの人々が認識しているところであろう。平成26年度の「国語に関する世論調査」¹問16などからも明らかである。

情報機器の普及により、画一的で読みやすい文字の使用が容易になった一方で、一人一人の文字の特徴を認めていくことが、豊かな文字の使用、文字によるコミュニケーションの良さにつながっていくと思われる。身体性や書き始めから書き終わりまでの時間の共有といった点に加え、パラ言語的な要素を伴って相手に届くという機能面からも説明できよう。その点でも手書きによる字形の多様性が強く関わっていると考えられることができる。

4. より良い字形であることの意味と合理性

4-1 字形を考える視点

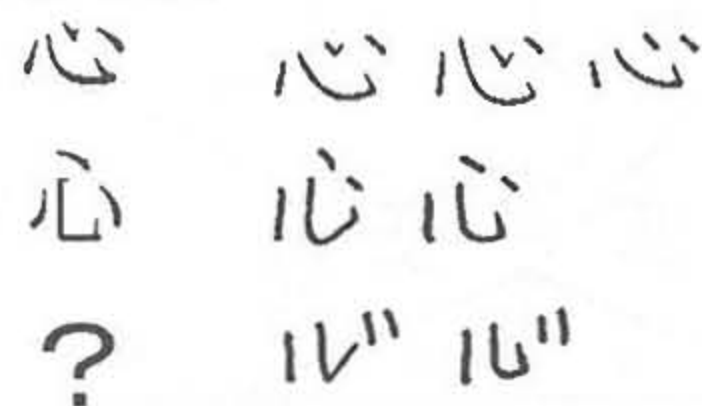
より良い字形、また学習の際に参照するための望ま

しい字形と、それらが有する特徴、またその根拠や合理性について考えたい。字形に対する一般的な視点としては、丁寧かどうか、うまいか下手かといった見方がされる。国語科書写としては、文字の機能から「読みやすさ」が重要であり、書き手の立場からは「書きやすさ」「覚えやすさ」⁴も大切な要素となるであろう。以下、これらの視点から、検討することとする。

4-2 読みやすさのために

— 画一的字形と識別要素の明確さ・整齊さ等 —
読みやすい字であるための条件の一つは、普及している字形、多くの人が見慣れた字形に近いことであるといえよう。図6の「心」の例のように、教科書体および明朝体に近い字形は比較的認識しやすく感じるが、「？」の横の字形は読みにくいと感じる方が多いだろう。この考え方に基づく学習は、画一的な字形の方向性といえよう。

■見慣れた字形と近い特徴



■整齊さと識別要素の明確さ

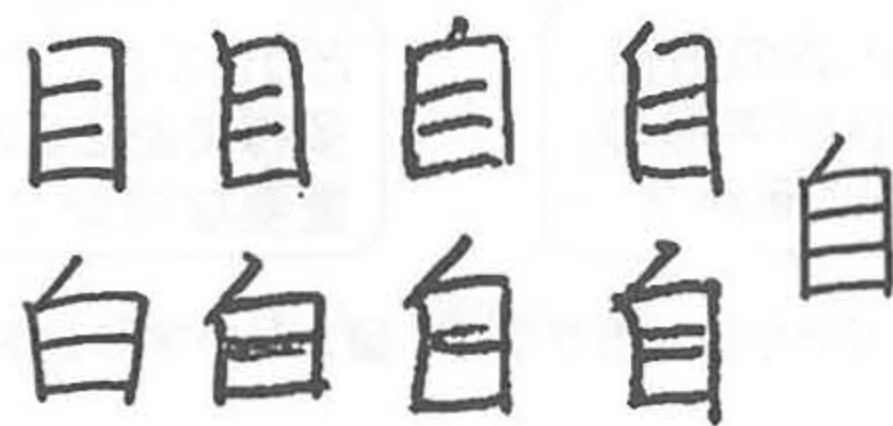


図6 読みやすさのために

もう一つの条件として、識別要素の明確さや整齊さがある。図6「目～白～白」の例では、点画の長さが識別するのに適した長さになっているか、画と画との間隔が明確であるかどうかで、読みやすさが異なっている。これら点画の長さ・間隔は、書写の学習内容である。単なる手本の模倣による画一化の学習のみではなく、こういった識別要素を明確にしたり、整齊にしたりすることが学習内容となっていることを周知すべきである。

4-3 書きやすさのために

— 動作の良さと字形 —

字形の特徴には、書きやすさと関わるもの⁵があ

る。たとえば点画の終筆の形状について、「とめ・はね・はらい」といった細かいところにこだわる必要はないといった意見がある。しかし、字形の特徴としては極めて小さい箇所であっても、次の画への空中での動作を決定するという、動作としては大きな部分を占めることもあり得る。図の「小」の2画目がその例である。はらいについては、書字動作における右回りの回転運動と関わる左払いと、隷書の波磔を起源とする装飾的な要素を持った右払いとは分けて考えるべきであろう。右払いについては、フォーマリティ等と書きやすさとのバランスで考えられる。はねについても、速く書いた場合などにおいて、筆記具を浮かすべき箇所で浮き足りない場合に生じるはねと、「化」のはねのような装飾的な要素を持ったものが考えられる。

接し方や読みやすさとの関係が主となるが、「日」と「口」の接し方の違いなどにおいて、書きやすさによって選択される場合があることなども周知すべきであろう。

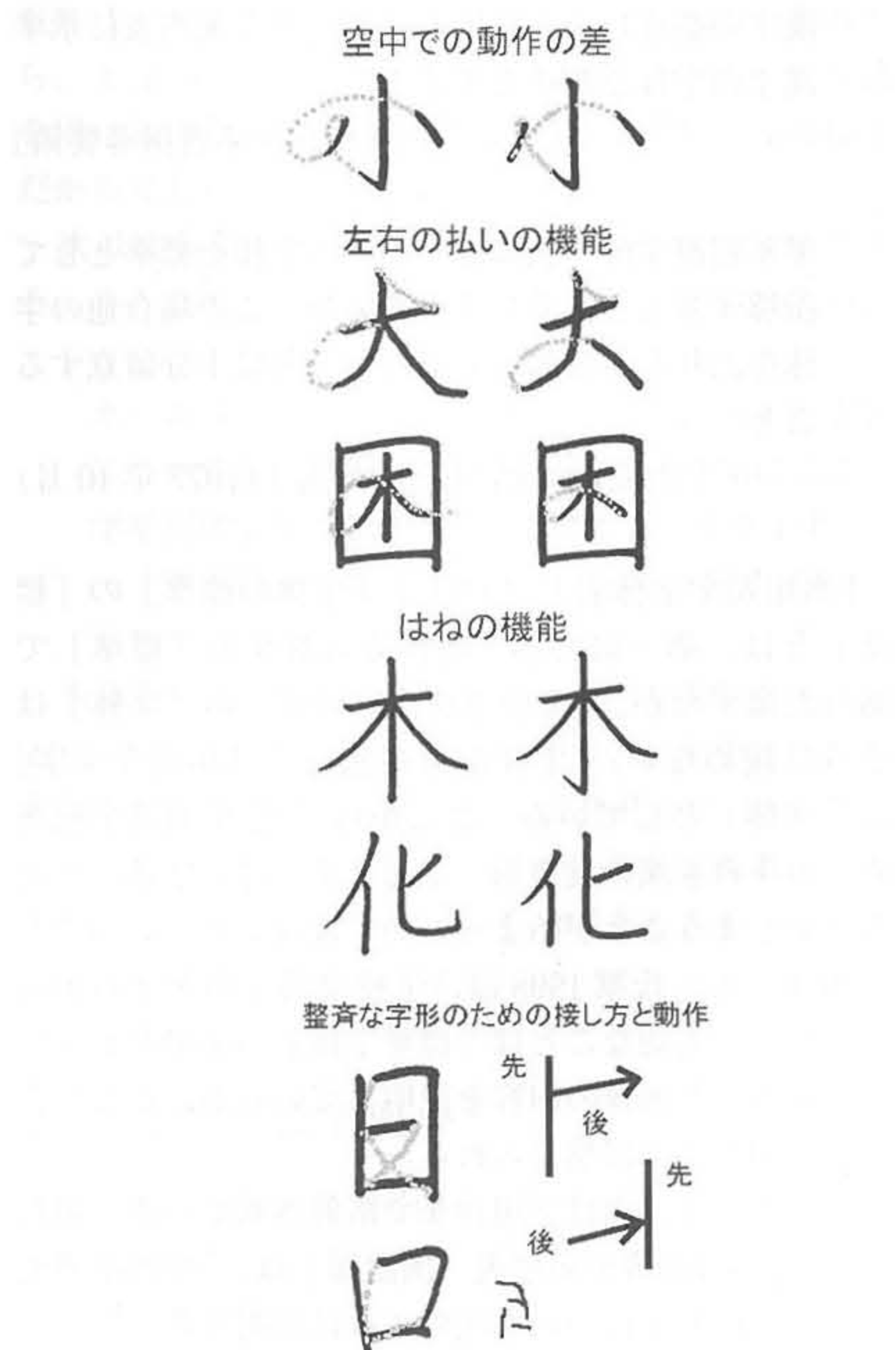


図7 書きやすさのために
装飾的要素・空中での動作

4-4 覚えやすさのために

「覚えやすさ」について、二つの視点から考察したい。

小学校低学年の児童に、「ここはとめてもはねても

いいけれど、ここは必ずとめること」といった指導を行うことを想定する。子どもたちは判断に迷い、学習を非効率的にしてしまうことが予想される。細かな字形特徴を指導することや、一定の字形に限定するような指導は学習負担となるように思われがちであるが、適切な字形に絞って指導することは、発達段階によって学びやすい、覚えやすい方法である可能性がある。

もう一点は、学習する字形の特徴における覚えやすさである。たとえば横画の長さについては、一画強調によった方が覚えやすい。こういった点についても、一般に知られているとはいえず、周知が必要であろう。

5. 書写学習の在り方と今後について

書写学習は手本をまねる学習から、手本に内在する読みやすさ・書きやすさ等の要素を学習し、子どもたちの字の向上を図るものへと変化してきた。その指導の在り方は、字形の多様性とより良い字形の共存とに合致している。さらに、目的意識・相手意識と多様な文字への関心、効果的に書くこととも関連している。その点を意識し、周知していくことが重要である。

課題として漢字テスト等における評価の問題、また漢字学習と書写学習の連続性の問題、さらに多様であることの価値の研究、望ましい字形の合理性の明確化などがあげられる。過去の研究成果⁶を踏まえ、基礎研究を続けていくことも重要だと考える。

注

- 1 文化庁 (2016) 『常用漢字表の字体・字形に関する指針 (報告)』
- 2 押木 (2016) 漢字教育を書写指導の視点から考える—より良い字形と多様性—, 教育委員会月報6月号 (第801号), 第一法規
- 3 押木 (2016) 国語科書写としての字形の多様性・機能性, 日本語学 2016.11月号, 明治書院
- 4 押木 (2000) 汎用性と合理性という視点からみた書写教育の基礎についての試論, 書写書道教育研究 14号
- 5 押木 (2011) 書字動作における読みやすさの維持と冗長性の概念, 平形『文字文化と書写書道教育』萱原書房
- 6 鈴木・久米 (1987) いわゆる「字体」の許容について—漢字文化圏の教科書用活字の比較を通して—, 書写書道教育研究 第1号

※本稿で使用した文字例については、指針に掲載されている文字例を多く用いさせていただいた

書写書道教育研究

第 31 号

論文

- 1930-50年代の国語教育学における書字教育の位置づけとその理論 杉山 勇人 1
- 明治20年代の「習字」における言語的実用性の再評価 鈴木 貴史 11
- 『中小学書法教育指導綱要』通知以降の中国における写字・書法教育の動向について
—関連法規の分析を中心として— 草津 祐介 21
- 右払いやはねから感受される視覚的效果 平田 光彦 33

研究ノート

- 利き手・非利き手での書字活動時における脳血液動態の比較
—NIRS及び筆圧握圧計測装置による測定を通しての試論— 小林比出代 41
- 学童用毛筆の墨持ちと点画を書く際の墨量に関する研究
—猷毛筆と人工毛筆との比較を通して— 廣瀬 裕之・北川 航平 49

シンポジウム 常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）と書写教育

- シンポジウム総括 松本 仁志 55
- 手書き文字への理解のために —「常用漢字表の字体・字形に関する指針」— 武田 康宏 56
- 文字を書くことの学習における字形の多様さの価値と望ましさ
—「常用漢字表の字体・字形に関する指針」と漢字学習・書写学習— 押木 秀樹 60
- 字体研究からみた「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」 佐藤 栄作 64
- 字体・字形に関する指針から漢字指導と書写指導の関連を考える 宮澤 正明 68

* * * * *

- 学会の動向・編集後記 71